

一般社団法人金融先物取引業協会における為替リスク想定比率の算出方法

<p>I 価格データの生成</p>	<p>(1) 為替リスク想定比率の算出に用いる価格データには、CME Group Benchmark Administration Ltd (以下「CBA」といいます。)のFX Market Reference Rateを用いる。FX Market Reference Rateの生成はCBAにより次の手順で行われる。</p> <p>① 主要な通貨ペアについては、当該通貨ペアごとにEBS Marketプラットフォームから各営業日における東京時間15時の前後2分30秒の取引データを取得し、出来高加重平均価格 (Volume Weighted Average Price。以下「VWAP」という。)を算出する。</p> <p>② VWAP算出に必要なデータが十分にとれない通貨ペアについては、CBAが事前の取決めにより段階的な代替手段を以って価格データを生成する。</p> <p>なお、FX Market Reference Rateが利用できないような事態が発生した場合には、本協会の緊急時対応計画及びBCPに従い、価格データを用意する。</p>
<p>II 直近26週を対象とした数値の計算</p>	<p>(2) 基準日 (毎週金曜日。以下同じ。)の属する週から起算して過去26週の各営業日において、当日価格データ÷前日価格データの結果の自然対数を求める。</p> <p>(3) (2)の標準偏差を求め、片側99%をカバーするため、それに2.33を掛ける</p>
<p>III 直近130週を対象とした数値の計算</p>	<p>(4) 基準日の属する週から起算して過去130週の各営業日において、当日価格データ÷前日価格データの結果の自然対数を求める。</p> <p>(5) (4)の標準偏差を求め、片側99%をカバーするため、それに2.33を掛ける。</p>
<p>IV 為替リスク想定比率の決定</p>	<p>(6) (3)と(5)を比べ、大きい方を為替リスク想定比率とする。</p>
<p>V 為替リスク想定比率の公表</p>	<p>(7) (6)の為替リスク想定比率及びそれをレバレッジになおしたものを公表する。</p> <p>為替リスク想定比率は、(6)×100の値の小数点第3位を切上げて小数点第2位までの数字を公表する。レバレッジは、公表する為替リスク想定比率の逆数×100の値の小数点第3位以下を切り捨てたものを公表する。</p>

【計算例】 基準日を 2017/02/17（金）とし、USDJPY について計算する。

(1) USDJPY について必要な価格データを準備する。

<直近 26 週を対象とした数値の計算>

(2) 113.39 (02/17 の価格データ) \div 113.86 (02/16 の価格データ) = 0.995872124 . . . ①

①の自然対数は、 $\text{LN}(0.995872124) = -0.00413642$. . . ②

過去 26 週 (2016/08/22 から 2017/02/17) の各営業日について①②と同様に当日価格データ \div 前日価格データの結果の自然対数を求める。 . . . ③

(3) ③の標準偏差を求める。 0.008121682 . . . ④

④ \times $2.33 = 0.018923519$. . . ⑤

<直近 130 週を対象とした数値の計算>

(4) 過去 130 週 (2014/08/25 から 2017/02/17) の各営業日について①②と同様に当日価格データ \div 前日価格データの結果の自然対数を求める。 . . . ⑥

(5) ⑥の標準偏差を求める。 0.006574288 . . . ⑦

⑦ \times $2.33 = 0.015318091$. . . ⑧

(6) ⑤と⑧の数値を比較して大きい方を為替リスク想定比率として採用 (レバレッジが低い方を採用) する。
この場合は、⑤の 0.018923519 となる。

(7) 本協会が公表する値は、(6) $\times 100 = 1.8923519$ の小数点第 3 位を切上げたものになるため、**1.90%**となる。
レバレッジは、その 1.90 の逆数 $\times 100 = 52.63157894$ の小数点第 3 位以下を切り捨てた **52.63 倍**となる。

上述の計算を各通貨ペアに対して行う。